

# 兵庫・稲富遺跡

いなどめ

- 1 所在地 兵庫県たつの市(旧揖保郡)御津町稲富
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13)五月～九月
- 3 発掘機関 御津町教育委員会
- 4 調査担当者 芝香寿人
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～室町時代後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(姫路)

稲富遺跡は、御津町朝臣の雛山山地から南に延びる尾根の裾の麓床面下部にできた扇状地に位置する。圃場整備事業に伴い調査を実施した。弥生時代から室町時代後期にかけての複合遺跡であるが、主な検出遺構は室町時代後期の掘立柱建物・土坑などであった。但し、この遺跡の特徴は、奈良時代から平安時代にかけての須恵器が非常に多く出土している点である。また、

緑釉陶器や灰釉陶器も出土している。遺跡の北側には、奈良時代開基の伝承もある円融寺があり、本遺跡は寺院跡の可能性もある。

木簡は、集石土坑から出土した。土坑は、東西一・二m南北一・二mの隅丸形状を呈する。深さは二〇cmと浅く、底面は平坦である。土坑内には、一〇～二〇cmの角礫が四十数個乱雑に集積しており、その中から木簡が一点出土した。埋土からは、土師器片が二、三点出土したが、時期を決める資料にはならなかった。また、ほとんどの角礫には焼けた痕跡が見られ、検出状況から判断すると、異なる場所で焼かれた角礫などが、その後、二次的に土坑内に投棄されたものと考えられる。

## 8 木簡の积文・内容

(1)



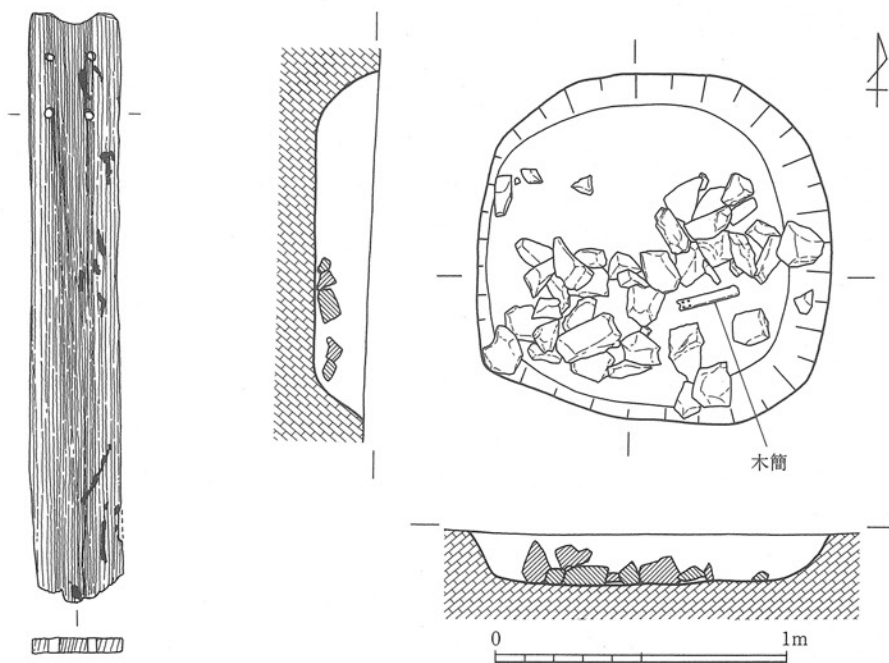
(212)×31×6 019

スギ材を使用している。頭部には径二～三mmの小孔が方形に四カ所穿たれており、下部は欠損している。出土した直後には墨書が観察されたが、文字を釈読する前に消えてしまい、赤外線写真などを使い判読を試みたが、結局内容は不明という結果になってしまった。

## 9 関係文献

御津町教育委員会『稲富遺跡』(御津町埋蔵文化財報告書四、二〇〇三年)

(芝香寿人)



木簡出土集石土坑遺構図

## 木簡研究 第二六号

巻頭言——『全国木簡出土遺跡・報告書綜覧』刊行に寄せて—— 小林昌二  
二〇〇三年出土の木簡

概要 平城京跡 左京三条三坊十一坪 平城京跡 右京北辺 平城京跡 石  
京四條二坊二坪 法華寺 旧大乗院庭園 藤原京跡 石神遺跡 飛鳥  
寺跡 難波宮跡 鳥羽遺跡 難波宮跡 東福寺 常楽庵庫裏 中世勝龍寺  
城跡 難波宮跡 久宝寺遺跡 難波宮跡 大坂城跡 玉津田中遺跡 北村廃寺  
玉櫛遺跡 伊丹郷町遺跡 明石城武家屋敷跡 対中遺跡 入佐川遺跡 永福寺  
洲城跡 佐助ヶ谷遺跡 大毛沖遺跡 土橋遺跡 北屋敷跡(春日町遺跡 第七地  
跡) 旗本岩瀬家屋敷跡(新諏訪町遺跡) 竜泉寺町遺跡 北島遺跡(第  
No.68遺跡) 馬場下町遺跡 元町二丁目遺跡 神明遺跡 北島遺跡(第  
一九地点) 松本城下町跡 荒井猫田遺跡 榊崎寺跡 河股城跡  
田目条里制遺構 門田条里制跡 松本城下町跡 荒井猫田遺跡 榊崎寺跡 河股城跡  
跡 仙台城跡(二の丸地区) 竹ノ内遺跡 市川橋遺跡 龍門寺前遺  
遺跡 古志田東遺跡 大在家遺跡 山形城跡 新谷地遺跡 長徳寺前遺  
目遺跡 観音堂遺跡 新田(一)遺跡 津輕氏城跡 弘前城跡 本町一丁  
流通業務団地No.20遺跡 中名VI遺跡 石名田木舟遺跡 願海寺城跡 小杉  
橋金広・中馬場遺跡 小出城跡 下前川原遺跡 道端遺跡 鹿田遺跡 青田遺跡  
米子城跡 21遺跡 米子城跡 才ノ峠遺跡 長門国分寺跡 長門国分寺跡(1)宮  
遺跡(KG〇七地点) 徳島城下町跡 観音寺遺跡 敷地遺跡(3) 高松城跡(中  
の丸地区) 雨窪遺跡群 小倉城跡 在自西ノ後遺跡 牟田口遺跡 膳家  
屋敷跡 柏町遺跡(長崎奉行所立山役所跡) 北島北遺跡 平城宮跡 弘田欄跡  
一七七七年前出土の木簡(二六)

一七七七年前出土の木簡(二六)

弥勒寺西遺跡(第五・一二・一三号) 宮内黒田遺跡(第二二号)

中央アジア出土のチベット語木簡——その特徴と再利用—— 館野和己・武内紹人

木に記された暦——石神遺跡出土土具注暦木簡をめぐって—— 竹内紹人  
文字の形と語の識別——「参」の二つの字形—— 桑原祐子  
書評 平川南著『古代地方木簡の研究』 鐘江宏之  
新刊紹介 木簡学会編『日本古代木簡集成』 武田和哉  
頒価 五五〇〇円 送料 六〇〇円